須賀川市教育研修センターだより　第 96号

「 み ち 」

令和２年３月　１０日 発行

すこやか教室　俳句

春の虹
新たな一歩の
架け橋に
歩美

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、日本では予防対策として全国規模の臨時休校となりました。年度末のまとめをする大切なこの時期に、突然の措置であったために、学校現場ではその後の対応に大変なご苦労があったことと推察しております。世界中で一日も早く、新型コロナウイルスの流行が終息できるよう心から願ってやみません。

教育研修センターにおいては今年度の事業がほぼ終了し、来年度に向けての計画を検討しているところです。この一年間、教育研修センターの各種事業を活用していただき、ありがとうございました。

今年度実施しました教育研修センター事業から２つの実践を紹介します。

ジャンプアップ研修から

今年度は 15 名の若い先生が、教職員にとって生命（いのち）である日々の授業の質の向上を目指して、ジャンプアップ研修に取り組み、着実に力をつけてきました。

「不安なのです」「まったく気付きませんでした」と弱音を吐きながらも、子どもたちの気持ちに応えようとする真剣でまっすぐ前を見る先生方の輝く目に、力強さを感じました。

子どもたちの主体性を引き出すために、指導計画を工夫したり、座席決定に悩んだり・・・・。多くのチャレンジと迷いは、これからの教師生活の宝となります。

笑顔あふれる元気な先生方の一層のジャンプ！！に期待します。

まっすぐ子どもを見つめる輝く目！！

先生を信じて頑張る子ども！！

養護教諭支援事業から

現代的健康課題解決のための対応

子どもたちのネットやゲーム依存、視力低下児の増加は大きな健康課題となっています。そのための対策として、学校での教育が重要になってきています。養護教諭支援事業の中で、健康課題解決に向けた保健指導の実践が行われました。（複数校実施）

ゲームをやりすぎるとなぜ目が疲れるのかな？

「ゲームの中のモンスターは、激しい動きをしているよね。」「それを追いかけて目玉も激しく動いているんだね。そんなゲームを何時間も続けていると、目の筋肉も疲れてしまい、大変なことになるんだね。それから近くを見続けることがなぜ目に良くないかが分かりました。」

ゲームはなぜやめられないのかな？

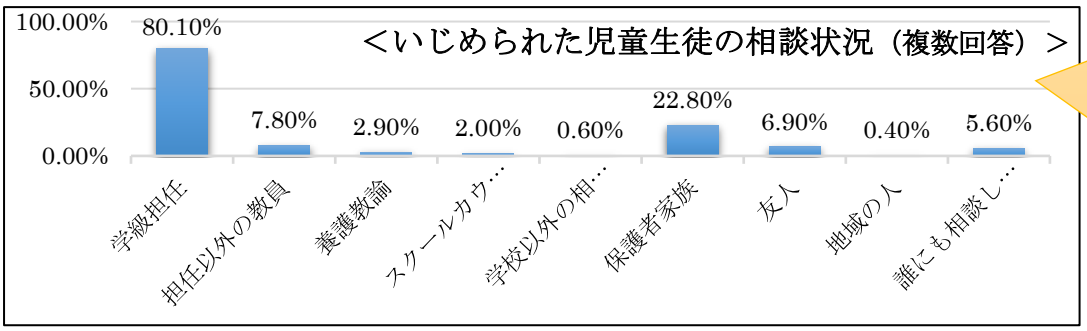
「目は、頭の中の脳につながっていますよ。ゲームを毎日やり続けると、頭の中では、・・・・・・。」

「ルールを決めて遊ぶことが大切です。」

子どもたちは、困った時に一番頼りにしているのは先生です！

文部科学省
令和元年 10 月発表

平成 30 年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果から



いじめられた児童生徒の相談状況から
いじめ認知件合計数 543.933 件

上記のグラフは、文部科学省で定期的に行っている「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果で、令和元年 10 月に発表された中の一部をグラフにしたものです。

子どもたちが学校の中一番困ったこととして考えられるのは、いじめを受けた時ではないでしょうか。そう解釈してこのデータを見てみると、子どもたちがいじめを受けて困った時に一番頼りにしているのは教師だということが分かりました。その中でも担任の先生が、かなり高率です。これは、子どもたちは先生にいつも話を聞いてもらいたい、分かってほしいと願っていることを強く示す結果ではないでしょうか。その根底には、教師と子どもたちが信頼関係で結ばれているからこその結果だと考えられます。

「生徒指導は授業である」とも言われています。教師が子どもたちに学校生活の中で一番多く接する時間は授業であり、どの子も学校での一番の願いは「授業が分かるようになりたい」であり、一番嬉しいのは「授業が分かった時」ではないでしょうか。授業の中で、子どもたちの願いや思いが満たされた時、子どもと教師のより深い信頼関係が醸成されていくものと考えられます。

教育学者で、須賀川市の教育に深く関わっている佐藤学先生は、著書「学び　その死と再生」の中で次のように述べています。教育には「ティーチング」としてのみならず「ケアリング（心砕き世話をすること）」が内在していなければならない。さらに、『「ケアリング」としての教育は、子どもの脆さや苦悩や哀しみや願いに対応する関りを築く教育なのであり、その応答的な関わりをとおして、その子の世界をともに生き、同時に教師も自分自身の世界を生きる教育なのである』とケアリングとしての教育の在り方を述べています。

今、須賀川市教育委員会では、「授業と授業研究を第一優先にした学校づくり」の研究を進めている中で、一人一人の子どもの学びの姿を丁寧に見取っていくことから始めています。子どもが夢中になって学ぶ姿は、先生を信頼し、安心感を持っている時の姿に現れます。

佐藤学先生が述べているように、ティーチングとしての教育の中に、心砕き世話をするというケアリングの視点を取り入れ、毎日の授業を中心に実践していきたいものです。

今回の新型コロナウイル感染症対策による突然の臨時休校は、感染症のパンデミックを阻止するために仕方のない措置ではありますが、子どもたち一人一人の胸中には、満たされない思いがあるのでないでしょうか。

今月で 9 回目の東日本大震災の日をむかえました。震災当初に、子どもたちの心が不安定になっていたことが思い出されました。来年度はさらに、子どもたちの様子や思いを丁寧に見取り、受け止めていきましょう。

センターなのに隅っこで、
大きくなるよと頑張ってる
小さなサボテン

＜センターにある名もない植物紹介＞